

令和 5 年度第 2 回名護市地域公共交通協議会 議事録

日時：令和 5 年 8 月 1 6 日(水) 1 4 時 0 0 分より

場所：名護市民会館中ホールおよび Web 会議

【報告】(1) 令和5年度第1回名護市地域公共交通協議会議事録について
 全員異議なし。

【報告】(2) 名護市街地周辺コミュニティバス(なご丸)実証実験について
 全員異議なし。

【議題】(1) アンケート・OD 調査・利用者実績把握方法について
 【議題】(2) と同時に議論

【議題】(2) コミュニティバス(なご丸)利用者アンケート、地域住民アンケートについて
 アンケート項目は後日書面決議

< 質疑応答 >

番号	委員	事務局・委員回答	対応方針
(2)-1	資料 3 の 1 頁にある調査時期の説明の中で、 運行開始から 1 か月程度経ってからの説明があ ったが、運行の開始時期と運行期間はいつか。 (沖縄県企画部交通政策課 比嘉代理)	コミュニティバスの運行開始日は 9 月 16 日を予定。令和 6 年 3 月末までの運行を予 定している。	—

(2)-2	<p>資料5の3頁の設問3-6、⑨バス停までの距離について、具体的に利用者が希望している距離を追加で入れたらよいのではないか。(私鉄沖縄県労働組合連合会 喜屋武委員)</p>	<p>アンケート紙面の都合を考慮しながら、年代に応じてどれくらいの距離を負担に感じるのか、確認できる設問を入れられるか検討する。</p>	<p>設問の中に、バス停まで歩いてよい距離を記載(数値を記述する形式)する欄を追加。(資料5 P.3 3-7 ⑨)</p>
(2)-3	<p>コミュニティバス利用者へのアンケートについて、タクシー利用への影響を聞く設問があるのはありがたい。どのような影響があるか、結果から考察していただきたい。</p> <p>第1回の協議会で、コミュニティバス運行がタクシー利用に与える影響があるのではないかという発言に対して、両者の役割がそもそも違うという回答があった。</p> <p>南城市のタクシー事業者からは、コミュニティバスの運行により、普段利用されていた高齢者の利用がピタッとなくなったという事例を聞いた。役割が違うものの、少なからず影響があるのではないかと思うので、改めて確認いただきたい。</p> <p>資料4のコミュニティバスの利用者へのアンケートのタクシー利用に関する質問の中にある「今年度」という表記は、「4月以降」と記載したほうが良いのではないか。</p> <p>また、設問Q14の行き先を聞く設問について、必ずしも自宅起点ではないので、「区間」を聞く方が良いのではないか。(沖縄県ハイヤー・タク</p>	<p>コミュニティバスとタクシーについて、資料4の裏面で役割の違いを把握する設問を設けており、どのような状況でタクシーを利用するのか、タクシー利用時の感触はどうかを確認することを想定している。</p> <p>行き先だけでなく区間を聞くことについては、金額を聞く質問を削って行き先を入れるといった対応も考えられる。設問について事務局で再度検討する。</p>	<p>コミュニティバスが運行していない時のタクシーの利用頻度を聞かれていることが明確にするため、「今年度コミュニティバス運行前、タクシーはどのくらい利用していましたか？」から「コミュニティバスの運行がない時はタクシーをどのくらい利用していましたか？」に修正。(資料4 Q12)</p> <p>「普段タクシーを利用する際の行先やだいたいの金額を教えてください。」から出発地も把握できるよう「タクシーを利用する際の最も利用する区間とその金額を教えてください。」に修正(資料4 Q14)</p>

	シー協会 津波古委員)		
(2)-4	<p>資料3の6頁、資料5の2頁の家庭の送迎回数を聞く設問2-1、に関連して、道路管理者として把握している交通渋滞としては、送迎がない夏休みは空いており、学校がある時期が混んでいる。公共交通機関を使うことで改善できないかなと考えている。</p> <p>また路線バスのダイヤについて満足度を聞く資料5設問3-4では、便数が少なく使い勝手が悪いという結果になると予想されるので、コミュニティバスの運行によりフォローできれば良いと思われる。そこで、送迎状況の設問の中に、時間帯を把握する項目も追加してはどうか。アンケートの結果に基づき、要望の高い時間帯に増便することも検討できるのではないか。(北部土木事務所 大城委員)</p>	<p>時間帯についての観点が抜けていた。時間帯についても聞ければと思う。</p> <p>アンケートで55区別で居住地も聞く予定のため、地区別に要望を抽出できるのではないかと考えている。</p>	<p>設問2-1の具体的な送迎パターンの回答欄に時間帯を記載(数値を記述する形式)する欄を追加。また、後段の設問は2-1の回答から把握できることから削除し、新たに2-2「公共交通を利用できるとしたら、2-1で回答した送迎でなくなくなりそうなものはありますか?」という公共交通への転換可能性の有無とその理由を把握するための設問を新設した(資料5 P.2 2-6)</p>
(2)-5	<p>資料3の1項にある表の、コミュニティバス利用者への乗降調査の手法について、VISAタッチだと乗降データが取れるが、なぜOKICAでは降車データしか取れないのか。また、OKICAで乗車時の時刻データは取得できるのか。(琉球大学神谷委員)</p>	<p>路線バスと搭載されているOKICAの決済端末とは異なる端末を利用する。今回の仕様では、乗車時の時刻・場所のデータは取得できない仕様となっている。</p>	—

(2)-6	<p>資料4の設問①と、資料5の設問1-3について、それぞれ年代を聞いているが、選択肢の年代区分を揃えたほうが良い。</p> <p>また、割引運賃で無料に設定されているのは65歳以上であるのに対して、アンケートでは60代となっている。年齢の区切り方を統一した方がよい。前期・後期高齢者の区切りはよいとして、20代という選択肢についても20代であるかよりも、20歳の大学生と19歳の社会人の違いの方が大きいと思われる。</p> <p>そして、40代50代という区切りはあまり関係してこない。</p> <p>日常生活及び交通手段の選択に影響を及ぼす要素を軸に年代・職業の聞き方の区切りを検討してみてもどうか。(琉球大学 神谷委員)</p>	<p>事務局で質問項目などを整理した内容を委員のみなさまにお送りして、書面決議の形で承認をいただきたい。</p>	<p>日常生活及び交通手段の選択に影響を及ぼす年代と職業を把握するため、年代区分を a. 10代以下 b. 20～64歳 c. 65～74歳 d. 75歳以上の4区分とし、職業を問う設問(a. 学生 b. 社会人 c. パート・フリーター d. 専業主婦・無職)を追加した。</p>
(2)-7	<p>資料5の設問1-5について、選択肢にある「子供」という表記は、「子ども」という表記が望ましい。(琉球大学 神谷委員)</p>		<p>すべての表記を修正した。</p>
(2)-8	<p>資料5の設問1-5のb, c 選択者への次の選択肢について、未就学児は細かく区分されているが、高校生以上という区分は広すぎる。例えば、回答者が60代の場合は子どもが30～40代である可能性があるが、知りたいのは高校生である</p>		<p>a. 未就学児 b. 小学生 c. 中学生 d. 高校生・高専生 e. 大学生・専門学校生 f. それ以上の6区分とした。</p> <p>また、同居している親/祖父母の年代についても a. 64歳以下 b. 65～74歳 c. 75歳以</p>

	と思う。誰が誰を意識した区分にした方がよい。 (琉球大学 神谷委員)		上の 3 区分とした。
(2)-9	資料 5 の設問 2 については、設問 2-6 を先に聞いたほうが良い。設問 2-1 から 2-5 では平均や合計を議論しようとしているが、例えば名護東部の住民が普段子どもを小学校へ送り迎えることが多いが、月に 1, 2 回程度お年寄りを市街地の病院への送迎する場合、何の平均を取っているか分からない。そのため、設問 2-6 をまず先に聞いて、その中で最も回数が多い、または距離が遠いものについて答えてもらうような設問にすると、何に対して答えているか分かりやすくなると思われる。(琉球大学 神谷委員)		設問 2-1 の具体的な送迎パターンの回答欄に時間帯を記載（数値を記述する形式）する欄を追加。また、後段の設問は 2-1 の回答から把握できることから削除し、新たに 2-2「公共交通を利用できるとしたら、2-1 で回答した送迎でなくなってしまうものがありますか？」という公共交通への転換可能性の有無とその理由を把握するための設問を新設した（資料 5 P.2 2-2）
(2)-10	資料 5 の設問 2-6 について、アンケートの設問からすると家族の誰が誰を送迎しているかを聞いていると思うので、選択肢 i の施設送迎サービスは家族の送迎ではないため、外れるのではないか。(琉球大学 神谷委員)		選択肢 i の施設送迎サービスを削除した。 (資料 5 P.2 2-1)
(2)-11	資料 5 の設問 3-1、3-2 について、路線バスに乗らないし、分かっていないにも関わらず、路線バスについてよく知っているという回答が結構あり、アンケートの解釈を難しくする。 最近バスに乗った時期や正解が明確なものを		路線バスの平均利用回数を訪ねる設問に加え、最後に路線バスを利用した時期を確認する設問を追加し、その回答結果から日常的な路線バス利用者なのかを判断することとした。(資料 5 P.3 3-5, 3-6)

	設問に入れて、バスについて本当にわかっているかどうかを判断するとよい。分かっていない人が設問3-6で不満と回答してもというところもある。(琉球大学 神谷委員)		
(2)-12	資料5の設問3-7について、例えば、年間一家族あたりいくらまでは、路線バス・コミュニティバスを維持するために負担してもよいかという聞き方がよい。(琉球大学 神谷委員)		「市が負担することについて」の設問に「路線バスを維持するために負担してもいいと思う市民1人あたりの金額を教えてください。」という文言を追加し、具体的な金額を記入する欄を追加。(資料5 P.3 3-8)
(2)-13	資料5の設問3-9について、色んな状況が混ざっている。需要が多いのはお酒を飲んだ後かもしれないが、いま知りたいのはそこではない気がする。 ここで知りたいのは日中の高齢者の通院や買い物利用などであると思われるので、聞きたいことが聞けるような限定した形での設問にした方がよく、知りたいこととアンケートの項目にメリハリをつけたほうがよい。(琉球大学 神谷委員)		選択肢については、様々な状況を広く用意した。年代や運転免許の保有の有無について、各選択肢の回答数が異なると想定しており、属性ごとのタクシーの利用理由とその多寡を把握したいため、このままの選択肢としたい。(資料5 P.4 3-10)
(2)-14	コミュニティバスアンケートについては、コミュニティバスの利用者数がわかるので、回収率を示すようにしてほしい。(琉球大学 神谷委員)		分析結果の報告時に回収率も示す。

(2)-15	<p>今後のスケジュールについて、12月上旬までにアンケートやって、年度内に取りまとめて、今年度末ぐらいに協議会の皆さんに承認もらうと思うが、</p> <p>次回、アンケート結果を踏まえて、次の年から本格運行したいのであれば、年度末ぐらいにある程度決めないと、申請に3ヵ月かかるので、来年の4月にまた同じ持論をしてしまうと、また来年運行開始が遅くなってしまうので、3、4月にアンケート結果報告と調整した結果を皆さんに報告して、実証か本格運行かになると思うが、そのスケジュール感を教えて欲しい。(北部国道事務所 松川委員)</p>	<p>なるべく後ろ倒しにならないよう進めていきたいと考えている。</p> <p>今年度は4回の協議会を予定している。今回は第2回。第3回目は11月、第4回目は3月を予定。</p> <p>11月を次回として、ご指摘の内容もあるため、3月までにもう一度協議会を開催するかを検討してご説明させていただきたい。</p>	—
(2)-16	<p>名護市のコミュニティバスについて、実証や本格運行でも65歳以上の高齢者や・障がい者などを無料と運賃設定しているが、コミュニティバス運行の目的と、料金設定は一定期間が無料なのか、ゆくゆくは有料化していくのかの見通しについて教えてほしい。(沖縄県企画部交通政策課 比嘉代理)</p>	<p>コミュニティバス導入の目的は、公共交通の利用者の増加、来訪者等が利用しやすい公共交通の導入、高齢者の外出機会創出による健康増進、高齢者の運転免許返納者の増加に伴う事故率低下、市内道路の渋滞緩和、EVバス導入による脱炭素への貢献、市内商業施設の売上拡大である。</p> <p>運賃は昨年度同様の運賃設定である。本格運行時も同様の運賃設定で運行したいと考えている。</p>	—

	<p>沖縄県で、地域公共交通計画で南部・中部・北部のエリアや沖縄県広域での政策を作る取り組みを進めている。市町村のコミュニティバスと路線バスの連携が大事になってくるので、名護市の取り組みに注目している。</p> <p>県の将来像としては、高齢者が増加する中で頼れる家族が減っていった、自動車に頼らずに移動できる環境の充実を図っていくことがポイントになっていく。</p> <p>広域の課題に対しても市町村でも取り組んでいくものと思っている。路線バスとコミュニティバスの連携にあたっては、自動車しか使わない人にどうやって公共交通機関を使ってもらえるようになるかといった点含めて調整させてもらえればと考えている。(沖縄県企画部交通政策課 比嘉代理)</p>	—	<p>今後も関係者と連携を図りながら交通政策を進めていきたい。</p>
(2)-17	<p>コミュニティバス運行の影響についてしっかり分析し、本格運行の際のルート設定に活かしてもらいたい。可能であれば今年度中に本格運行のルートについて示していただきたい。(沖縄総合事務局 運輸部企画室 金城代理)</p>	—	<p>本年度実施するアンケート等の結果を踏まえて、今年度中に本格運行案について示す。</p>

(2)-18	路線バス 65、66 系統について、先日の台風で通行止めとなった道があり、迂回して運行を継続しているが、復旧の目途が立っていないとのことで、利用者からの問い合わせも多い。情報があればで共有していただきたい。(沖縄バス名嘉山委員)	斜面崩壊と倒木で切れた電線により通行止めとなっている。土砂の撤去などを行い、片側通行できるように目指している。すみやかな交通機能の確保をしたいと考えている。(北部土木事務所 大城委員)	—
--------	--	--	---

<次回の会議等について事務局から連絡>

- ・ コミュニティバス (EV バス) の運行前にお披露目式を企画している。内容について詳細が決まり次第案内する。
- ・ 第3回名護市地域公共交通協議会は11月に開催を予定している。
日程確認表を送付しているので、8月31日までに返送してほしい。
- ・ 次回の開催前に、今回協議が整わなかった議題について書面決議を行う。